

証券コード：4547

決算補足資料

2023年3月期 通期決算

2023年5月8日

 **キッセイ薬品工業株式会社**

目次

【決算短信「当期の経営成績の概況」より抜粋】	P 1
I. 連結損益計算書の推移	P 2
II. 連結貸借対照表の推移	P 4
III. 連結キャッシュ・フロー計算書の推移	P 6
IV. 配当の推移	P 7
V. 主な医薬品の売上推移	P 8
VI. 新薬開発状況（自社）	P 9
VII. 新薬開発状況（導出）	P 9

注記

- ・ 本資料記載の将来見通しは、既存の情報や様々な動向についてのキッセイ薬品による2023年5月時点での分析に基づいています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により見通しと異なることがあります。

【決算短信「当期の経営成績の概況」より抜粋】

・売上高の状況

医薬品事業の売上高は、56,243百万円（前連結会計年度比3.9%増）となりました。当社は、昨年5月にEAファーマ株式会社と共同開発を行いました潰瘍性大腸炎治療薬「カログラ錠」を、昨年6月に顕微鏡的多発血管炎・多発血管炎性肉芽腫症治療薬「タブネオスカプセル」を、そして本年4月に慢性特発性血小板減少性紫斑病治療薬「タバリス錠」を、それぞれ新発売いたしました。コロナ禍の中、従来からのリアル面談と各種デジタルツールを効果的に活用したハイブリッド型の医薬情報活動を推進いたしましたことなどにより、これら新製品の市場導入を計画どおりに進め、また、過活動膀胱治療薬「ヘオーバ錠」、腎性貧血治療薬「ダルベポエチン アルファBS注JCR」などの売上、並びにコ・プロモーションフィーが伸長しました。さらに、技術料売上、輸出売上なども増加し、増収となりました。

情報サービス事業の売上高は8,285百万円（前連結会計年度比7.0%増）、建設請負事業の売上高は2,343百万円（前連結会計年度比20.5%減）、物品販売事業の売上高は621百万円（前連結会計年度比14.3%増）となりました。

・利益の状況

利益面では、増収に加え、売上原価率が若干改善しましたものの、販売費を主とした販売費及び一般管理費の増加を吸収することができず、営業損失となりました。経常利益は増益となりました一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益の計上がありましたものの、減益となりました。

・研究開発の状況

丸石製薬株式会社と共同開発を行っております透析患者におけるそう痒症治療薬ジフェリケファリン（一般名、開発番号：MR13A9）につきましては、同社より昨年9月に承認申請が行われました。

当社の創製品であります、子宮筋腫・子宮内膜症治療薬リンザゴリクス（一般名、開発番号：KLH-2109）につきましては、子宮筋腫を適応症として国内第Ⅲ相臨床試験を実施しております。

海外におきましては、当社がオブシーバ社（スイス）との間で締結したリンザゴリクスの日本などアジアの一部を除く全世界における独占的な開発権及び販売権を許諾したライセンス契約は、昨年11月末日にて終結しました。なお、同契約に従い、終結と同時に当社に自動承継された、オブシーバ社とセラメックス社（英国）間の本剤の北米、アジア以外における商業化に関するサブライセンス契約は、最新の状況に即した諸条件の見直しを終了し、本年4月に更改されました。現在、2023年度中の欧州における本剤の発売に向け、セラメックス社による市場導入準備が進められています。

また、本剤の米国における開発は、自社では行わず、他社との提携について検討してまいります。なお、子宮筋腫を適応症とする本剤の新薬承認申請（NDA）はオブシーバ社により、昨年8月に取り下げられています。

リンザゴリクスのアジア地域における技術導出につきましては、一昨年9月に中国においてバイオジェニユイン社（中国）に独占的な開発権及び販売権を許諾したことに続き、昨年11月、シンモサバイオフาร์ม社（台湾）に台湾における独占的権利を許諾しました。

I. 連結損益計算書の推移

(百万円)

項目	決算期 2022年 3月期	2023年3月期			2024年3月期予想		
		予想*1	実績	前期比	通期	前期比	うち上期
売上高	65,381	68,500	67,493	3.2%	74,500	10.4%	35,500
医薬品事業	54,147	57,500	56,243	3.9%	62,500	11.1%	29,500
医薬品	45,792	47,600	47,077	2.8%	51,500	9.4%	25,000
ヘルスケア食品	3,568	3,600	3,461	△3.0%	3,600	4.0%	1,800
技術料*2	518	1,700	1,053	103.4%	3,000	184.7%	500
その他*3	4,268	4,600	4,650	8.9%	4,400	△5.4%	2,200
情報サービス事業	7,742	7,900	8,285	7.0%	7,900	△4.6%	3,700
建設請負事業	2,948	2,400	2,343	△20.5%	3,300	40.8%	1,900
物品販売事業	543	700	621	14.3%	800	28.8%	400
(売上高のうち輸出)	(3,713)	(5,300)	(4,584)	(23.4%)	(7,500)	(63.6%)	(2,300)
売上原価	34,143	34,400	35,118	2.9%	37,600	7.1%	18,500
(原価率%)	(52.2)	(50.2)	(52.0)		(50.5)		(52.1)
売上総利益	31,238	34,100	32,374	3.6%	36,900	14.0%	17,000
販売費及び一般管理費	32,640	33,600	33,503	2.6%	32,700	△2.4%	16,100
研究開発費	10,363	10,500	10,391	0.3%	9,200	△11.5%	4,500
(売上高比%)	(15.9)	(15.3)	(15.4)		(12.3)		(12.7)
営業利益又は営業損失(△)	△1,402	500	△1,129	-	4,200	-	900
営業外収益	2,092	1,700	1,837	△12.2%	1,100	△40.1%	650
受取利息及び配当金	1,586		1,402	△11.6%			
その他の収益	506		434	△14.2%			
営業外費用	127	100	109	△14.5%	100	△8.5%	50
支払利息	23		20	△14.2%			
その他の費用	104		89	△14.6%			
経常利益	562	2,100	598	6.4%	5,200	768.4%	1,500
特別利益	16,601	12,010	13,086	△21.2%	9,000	△31.2%	5,000
特別損失	656	10	4	△99.3%	-	-	-
税金等調整前当期純利益	16,507	14,100	13,680	△17.1%	14,200	3.8%	6,500
法人税、住民税及び事業税	4,017	2,600	2,113	△47.4%	2,600	23.0%	1,250
法人税等調整額	△542	600	932	-	900	△3.5%	400
非支配株主に帰属する 当期純利益	110	100	105	△4.6%	100	△5.2%	50
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,921	10,800	10,528	△18.5%	10,600	0.7%	4,800
(包括利益)	(△13,764)	(△4,229)	(-)				

*1：2023年3月期第2四半期決算発表時に公表した予想数値

*2：ライセンスアウトに係る契約金、マイルストーン収入、ランニングロイヤリティの合計額

*3：国内販売提携先供給額、コ・プロモーションフィーの合計額

売上高	<p>実績： 医薬品事業：3.9%増収 医薬品が増加。医薬品ではベオーバ、ダルベポエチン アルファBS他の増加、カログラ、タブネオスの市場導入、輸出売上の増加などにより全体で増収。また、ヘルスクエア食品が微減の一方、技術料売上が増加、その他の売上はコ・プロモーションフィーを主に増加。 その他の事業：0.1%増収 情報サービス事業が7.0%増収、建設請負事業が20.5%減収、物品販売事業が14.3%増収。</p> <p>予想： 医薬品事業：11.1%増収 医薬品では、引き続きベオーバ、タブネオス及びカログラなどの育成を図るとともに、タバリスの市場導入により、増収の見込み。 ヘルスクエア食品は微増、技術料売上が増加の一方、その他の売上は減少の見込み。 その他の事業：6.7%増収 建設請負事業、物品販売事業にて増加、情報サービス事業にて減少の見込み。</p>
売上原価	<p>実績：売上原価率は0.2ポイント改善 医薬品事業の売上原価率は技術料売上やコ・プロモーションフィーの増加などにより若干の改善。加えて、その他の事業も事業構成の変化などにより若干の改善。</p> <p>予想：売上原価率は1.5ポイント改善 医薬品事業の売上原価率は製品構成の変化に加え、技術料売上の計上などにより改善を見込む。一方、その他の事業は事業構成の変化などにより上昇を見込む。</p>
販売費及び一般管理費	<p>実績：前期比2.6%増加 販売費、一般管理費、研究開発費の全てにおいて増加。販売費の増加は、営業活動経費、減価償却費の増加などによる。研究開発費は、オープンバ社から継承した海外臨床試験費用を計上したものの、既導入テーマのマイルストーン支払いが減少し、全体ではほぼ前期と同額の消費となる。</p> <p>予想：前期比2.4%減少 販売費が増加の一方、一般管理費、研究開発費は減少の見込み。販売費の増加は、前期と同様の理由による。研究開発費は、臨床開発費用、既導入テーマのマイルストーン支払いを主に減少を見込む。</p>
営業外損益	<p>実績：受取利息及び配当金、有価証券評価益の減少などによる。</p> <p>予想：特別なものは見込んでいない。</p>
特別損益	<p>実績：投資有価証券売却益の減少などによる。</p> <p>予想：投資有価証券売却益の計上を見込む。</p>

【その他項目（連結）】

(百万円)

項目	決算期 2022年 3月期	2023年3月期			2024年3月期予想		
		予想*	実績	前期比	通期	前期比	うち上期
減価償却費	3,730	4,100	4,109	10.1%	4,400	7.1%	2,200
設備投資額	1,488	1,100	2,187	47.0%	1,770	△19.1%	550
主要内容	生産設備等 428 その他 1,059	生産設備等 200 その他 900	生産設備等 110 その他 2,077		生産設備等 420 その他 1,020		生産設備等 120 その他 300
期末従業員数(人)	1,828	-	1,795	△33	-	-	-

*：2023年3月期第2四半期決算発表時に公表した予想数値

II. 連結貸借対照表の推移

(百万円)

項目		決算期	2022年 3月期	2023年 3月期	増減
資 産	流動資産		99,342	100,641	1,299
	現金及び預金		30,013	25,893	△4,119
	受取手形、売掛金及び契約資産		22,808	22,780	△27
	特定金銭信託及び有価証券		26,862	27,541	679
	棚卸資産		18,988	22,798	3,810
	その他の流動資産		669	1,627	957
	固定資産		138,745	120,558	△18,186
	有形固定資産		24,074	24,579	504
	無形固定資産		1,569	1,507	△62
	投資その他の資産		113,101	94,472	△18,628
	投資有価証券		96,631	74,769	△21,861
	長期前払費用		12,480	15,209	2,728
	退職給付に係る資産		2,460	3,089	629
	繰延税金資産		524	433	△90
	その他の投資等		1,027	988	△39
	貸倒引当金		△23	△18	5
資産合計			238,087	221,200	△16,887

現金及び預金	・主として、利益による増加の一方、納税や長期前払費用の取得による減少
受取手形、売掛金及び契約資産	・医薬品事業における増加、情報サービス事業及び建設請負事業における減少
棚卸資産	・医薬品事業における商品及び原材料の増加、情報サービス事業における仕掛品の増加
その他の流動資産	・医薬品事業における未収入金、前払費用の増加
有形固定資産	・減価償却による減少の一方で、医薬品事業におけるリース資産の増加
投資有価証券	・時価評価による含み益の減少
長期前払費用	・減価償却による減少の一方で、医薬品事業における新規取得資産の計上による増加

(百万円)

項目		決算期	2022年 3月期	2023年 3月期	増減
負 債	負債合計		35,907	26,385	△9,521
	流動負債		18,744	14,957	△3,786
	支払手形及び買掛金		4,104	4,617	513
	短期借入金		1,640	1,490	△150
	未払法人税等		3,497	408	△3,089
	契約負債		2,696	1,846	△850
	その他の流動負債		6,806	6,594	△211
	固定負債		17,163	11,428	△5,735
	繰延税金負債		16,259	10,426	△5,833
	その他の固定負債		903	1,001	98
純 資 産	純資産合計		202,180	194,814	△7,365
	株主資本		153,854	161,246	7,392
	資本金		24,356	24,356	-
	資本剰余金		24,226	24,226	-
	利益剰余金		118,183	125,576	7,392
	自己株式		△12,912	△12,912	△0
	その他の包括利益累計額		47,531	32,653	△14,878
	非支配株主持分		794	914	120
負債及び純資産合計			238,087	221,200	△16,887

支払手形及び買掛金	・医薬品事業における増加、建設請負事業における減少
未払法人税等	・医薬品事業における所得減に伴う減少
その他の流動負債	・医薬品事業における未払消費税の減少
繰延税金負債	・投資有価証券の含み益減少に伴う減少
その他の固定負債	・医薬品事業におけるリース債務の増加
利益剰余金	・期中配当金支払いによる3,135百万円減少、親会社株主に帰属する当期純利益による10,528百万円の増加
その他の包括利益累計額	・投資有価証券の含み益減少に伴うその他有価証券評価差額金の減少、退職給付に係る調整累計額の減少

Ⅲ. 連結キャッシュ・フロー計算書の推移

(百万円)

項目	決算期 2022年 3月期	2023年 3月期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,533	△6,679	△8,212
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,776	6,001	△4,775
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,756	△3,420	△663
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△21	△25
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	9,557	△4,120	△13,677
現金及び現金同等物の期首残高	43,447	53,004	9,557
現金及び現金同等物の期末残高	53,004	48,884	△4,120

主な増減要因（前期比）

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー：減少（支出増）

営業活動の結果、当連結会計年度において6,679百万円の支出となりました。仕入債務の増加などの収入増加要因がありました一方で、棚卸資産の増加、契約負債の減少、法人税等の支払額の増加などが支出増加要因となりました。

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー：減少

投資活動の結果、当連結会計年度において6,001百万円の収入となりました。長期前払費用の計上などの支出がありました一方で、投資有価証券の売却による収入などがありました。

3. 財務活動によるキャッシュ・フロー：減少（支出増）

財務活動の結果、当連結会計年度において3,420百万円の支出となりました。主な要因は、配当金の支払いです。

IV. 配当の推移

(円)

項目	決算期 2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期予想
中間配当	27	28	40	41
年間配当	54	56	80	82

(参考)

(百万円)

自己株式の取得 (取得株式数)	1,303 (600千株)	- -	- -	6,000 (2,000千株)
自己株式の消却 (消却株式数)	- -	- -	- -	- (2,500千株)

V. 主な医薬品の売上推移

(百万円)

製品名	決算期 2022年 3月期実績	2023年3月期			2024年3月期予想		
		予想*1	実績	前期比	通期	前期比	うち上期
過活動膀胱治療薬 ハオーバ	8,141	12,000	11,795	44.9%	16,200	37.3%	7,500
デスマレシン製剤 ミニリンメルト、他*2	3,965	3,900	3,703	△6.6%	3,450	△6.8%	1,700
排尿障害改善薬 ユリーフ	2,878	2,300	2,345	△18.5%	1,900	△19.0%	1,000
高リン血症治療薬 ピートル	5,784	6,000	5,665	△2.1%	5,800	2.4%	2,900
腎性貧血治療薬 ダルベポエチン アルファBS注JCR	3,730	4,300	4,386	17.6%	3,800	△13.4%	1,900
腎性貧血治療薬 エポエチンアルファBS注JCR	3,834	3,100	3,055	△20.3%	2,300	△24.7%	1,200
糖尿病治療薬 グルベス、グルファスト	4,990	4,100	4,061	△18.6%	3,800	△6.4%	2,000
糖尿病治療薬 マリゼブ	1,234	1,100	1,059	△14.2%	1,200	13.3%	600
口腔乾燥症状改善薬 サラジェン	1,412	1,100	1,073	△24.0%	1,000	△6.8%	500
MPA*3、GPA*4治療薬 タブネオス	-	800	1,029	-	3,200	210.8%	1,300
潰瘍性大腸炎治療薬 カログラ	-	600	500	-	1,400	179.7%	600
慢性ITP*5治療薬 タバリス	-	-	21	-	400	-	100

*1：2023年3月期第2四半期決算発表時に公表した予想数値

*2：ミニリンメルト、デスマレシン点鼻液、デスマレシン点鼻スプレー、デスマレシン静注

*3：顕微鏡的多発血管炎

*4：多発血管炎性肉芽腫症

*5：特発性血小板減少性紫斑病

VI. 新薬開発状況（自社）

（2023年5月現在）

一般名／開発番号	予定適応症	主な作用等	開発段階	開発区分等
ロバチレリン ／KPS-0373	脊髄小脳変性症	甲状腺刺激ホルモン放出 ホルモン(TRH)作用	承認申請中	導入品／塩野義製薬
ジフェリケファリン ／MR13A9	透析患者におけるそう痒症	κオピオイド受容体刺激作用	承認申請中	導入品／丸石製薬 共同開発
CG0070	筋層非浸潤性膀胱がん	腫瘍溶解性ウイルス療法	第Ⅲ相	導入品／CGオンコロジー (米国)
リンザゴリクス ／KLH-2109	子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト	第Ⅲ相	創製品
	子宮内膜症		第Ⅱ相	創製品
KDT-3594	パーキンソン病	ドパミン受容体刺激作用	第Ⅱ相	創製品
KSP-0243	潰瘍性大腸炎		第Ⅱ相	創製品

※ 前回公表時（2023年1月）からの変更点： タバリス[®]錠 承認取得 → 2023年4月6日新発売（削除）

VII. 新薬開発状況（導出）

（2023年5月現在）

一般名／開発番号	予定適応症	主な作用等	実施国・地域	提携企業	開発段階
リンザゴリクス (linzagolix)	子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト	欧州	セラメックス(英国)	承認取得
			中国	バイオジェニユイン(中国)	第Ⅲ相
			台湾	シンモサバイオファーマ(台湾)	申請準備中
	子宮内膜症		欧州	セラメックス(英国)	第Ⅲ相
	中国		バイオジェニユイン(中国)	第Ⅰ相	
シロドシン (silodosin)	前立腺肥大症に伴う排尿 障害	α1Aアドレナリン受容体 拮抗作用	ベトナム、他	エーザイ(日本)	承認申請中
ホスタマチニブ (fostamatinib)	慢性特発性血小板減少性 紫斑病	チロシンキナーゼ阻害作用	韓国	JWファーマシューティカル (韓国)	申請準備中
			中国、他	インマジンバイオファーマシ ューティカルズ(中国)	臨床試験 準備中
KDT-3594	パーキンソン病	ドパミン受容体刺激作用	中国、他	アフアメドセラピューティクス (中国)	第Ⅱ相

※ 前回公表時（2023年1月）からの変更点： リンザゴリクス（子宮内膜症・米国）第Ⅲ相 → 削除